

平成30年度 学校評価結果

学校法人 高松学園
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

平成27年から「子ども・子育て支援新制度」のもと、0歳児から5歳児までの教育・保育を行う「幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園」となりました。

幼保連携型認定こども園は、子どもたちが友達と遊ぶ、みんなで考える、一緒にお話を聞く、ティームをつくって運動をするなど、家庭ではできないことを体験し、学ぶところです。子ども達はお互いをモデルとし、あこがれたり、いたわったりしながら豊かな心と身体が育まれていきます。乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる大切な時期です。本園では、園児の一日の連続性及びリズムの多様性に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園と家庭とが信頼し合って、かけがえのない子ども達の育ちのための環境をつくっていきたいと考えています。

1. 教育及び保育の精神

本園は、認定こども園法及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図れるよう適当な環境を与えてその情操陶冶を行い宗教的萌芽を啓培し、以ってその心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援をすることを目的とし、次に示す事項を重視して教育及び保育を行う。

- (1) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を発揮する保育を大切にす。
- (3) 子どもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

2. 教育及び保育の目標

本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりの子どもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感得できるよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。

- 1 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 2 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- 3 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 4 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 5 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- 6 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

3. 重点目標

- I, 子どもが遊ぶ中で、自分なりに遊びへの思いをもち、発見したり、試行したり、想像力を発揮したり、友達と協力したりし、発達に必要な体験や学習を重ねていく姿を大切にす。
- II, 屋外活動を充実させ、園内の自然環境や地域の自然を日々の保育に積極的に取り入れていく。
- III, 保護者と保育教諭等が互いに連携し、協働の精神を持って子ども達の教育・保育を行うようにする。

4. 自己評価項目の達成及び取り組状況

分野	評価項目	評価	取り組状況
園の管理	教育および保育の目標の周知	A	<p>保護者に向けて事細かに園の教育および保育の目標や方針等を話す機会は限られているので、入園時に文書化した「重要項目説明書」を配布することは、保護者に伝えたり理解を得たりするために大変に役立っていると思われる。また、園の目標の下、どのように生活や活動が展開されているのか具体的に保護者に伝えるために、クラス便りやホームページを生かし、今後も機会を逃さず伝える努力を行っていききたい。</p> <p>また、職員については職員会等の会議に参加する機会の少ない非常勤職員への周知に配慮し、年度初めに今年度の園の方針等の共通理解を図ることが必要である。また、非常勤職員も参加する職員会等を今後増やし、情報の共有が滞ることなく、またそれぞれの意見が反映されるよう努めていききたい。</p>
	危機管理体制の整備	B	<p>防災計画にそった避難訓練などの実施や安全教育の実践に取り組む、園児の安全に対する感覚の育成に努めている。また避難訓練の実施の様子をホームページに載せる等、保護者にも園の活動の状況がわかるように工夫している。防犯については、まだ課題が多い。今後もその在り方について模索していく必要がある。</p> <p>登降園時の駐車場（園庭）について、送迎の自家用車に園児が巻き込まれる事故のないよう、また車両事故のないよう努めてきた。駐車スペースを確保するため、職員の駐車場を園外にある程度確保したり、行事などで混雑が予想される場合はメールや園便りで知らせ、市営駐車場等の利用の協力依頼を行ってきた。事故など大きな支障はないが、保護者アンケートでは、ルールを守らない状況や危険な状況があったことなどの指摘もあった。園だけでは解決は難しいことを感じている。今後はPTAの助言を受け、より良い方法を模索していききたい。</p> <p>業者による遊具の安全点検を行い、必要に応じて撤去・修繕を行った。年度中に行うことができなかつた遊具周辺の整備、遊具の新規購入など来年度の事業として計画的に行っていききたい。</p>

教育活動	家庭、地域、関係機関への情報発信	A	<p>長野県及び飯田市の薦める「信州やまほいく（信州型自然保育）」の認定を受けることができた。また全国展開されている「子どもの森づくり運動」の活動で年長児はどんぐりの苗の栽培を継続し、来年度は植樹する予定である。園周辺や地域の自然を教育資源として、子ども達が自然体験を豊かに重ねていくことができるよう今後も務めていきたい。</p> <p>今年度も、保護者ボランティアの力をお借りし、多くの園外保育の機会を持つことができた。また例年行っている花まつり、七夕、講演会、作品展、成道会、もちつき、人形劇を見る会などへの地域の方の参加や園児との交流、童唱まつりや公民館活動への参加など、保護者や地域の方々に尽力いただき子ども達は貴重な体験をすることができた。今後も様々な方々とのかかわりの中、地域の活動へも積極的に参加していきたい。</p>
	子育て支援	A	<p>昨年のプール自由参観に続き、今年度は地域公開行事の中の「成道会」を年長保護者の自由参加とした。今後も個々の都合に合わせて参加できる機会を検討していきたい。参加することで、園の様子がわかり、家庭内の話題が広がり、子育てにも張りや楽しさが増せば嬉しいことである。</p> <p>年々保護者の子育てに対する悩みは多様化してきている。それに伴い、園の子育て相談の役割はコーディネーター的な面が大きくなっている。相談の内容に応じ適切な専門機関や専門員へ繋ぐこと、また時間や場所等、効率よく相談が行われるような配慮等、事務的な仕事も多くなっている。認定こども園は子育てセンター的な役割を担っていることをしっかりと捉え、保護者や地域の子育て支援に今後も務めていきたい。</p> <p>園における子ども同士のかかわりから起こるトラブルが家庭へも及ぶことがあることを考慮し、保護者への説明、対応等、職員間で共通理解しておくことが必要である。年度の初めの職員会で話し合う内容に定着させるなど怠りなく実施したい。</p>
	教育課程・指導計画の共通理解	A	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴い、2023年までに教育課程の再編成を行うことを計画している。今年度は年度末に各月の見直しの要点をまとめ、来年度に備えたい。</p> <p>職員間より、チーム保育を行う上で重要な、保育の計画の共有がスムーズに行われないことがあったという反省が出された。計画だけでなく反省評価もチームとして行うべきである。ミーティングの時間の設定等、今後の課題である。</p>

	<p>発達段階に即した適切な乳幼児理解・援助</p>	A	<p>今年度は「自由に遊ぶ時間」を中心に、園児一人一人が自分のやりたい遊びにじっくりと取り組むための環境構成・援助の見直が一つの課題であった。取り組む中で、戸外遊びを充実するための職員の連携や配置が新たな課題となった。園全体の生活のリズム等にも配慮し、安全に園児が戸外遊びを楽しめる環境づくりに努めていきたい。</p> <p>保育に当たる担任等にも個性があり、その保育は個性に左右されるところがある。乳幼児理解や援助の仕方を高めていくためにも、常に、職員間で意見交換を行い、互いに保育に偏りが無いかどうか捉え直すことを心掛けることが大切である。経験に頼ることなく努力していきたい。</p>
	<p>小学校との円滑な連携</p>	B	<p>今年度の課題とした、小学校との円滑な連携に対する理解を深めるために行うとした、小学校の授業参観・懇談会参加後の報告が十分ではなかった。来年度は反省を生かし、報告を充実させることに努めたい。</p> <p>小学校は来入児に、入学の準備として、一日入学を活用し様々な体験活動を実施する。園においても学区の小学校との交流を行ってきた。今年度は1・2年生徒との交流会を実施したが、小学校の特別行事等あり、日程的に難しいところもあった。今後は各小学校で行う一日入学の内容の一つである小学生との交流等も考慮し、学区の小学校には見学を希望するなど、双方に無理のない方法で実施する。</p>
	<p>職員の資質向上</p>	A	<p>今年度は園内講演会、地区研修会、キャリアアップ研修会、園内研究会等、飯田女子短期大学准教授である田中住幸先生を講師として、様々な角度から「自然体験」について学んだ。これは各自が保育を見直すとともに、自身が自然と対峙する充実した体験となった。</p> <p>今年度より導入された処遇改善を受ける条件とされるキャリアアップ研修は、全職員を対象としているが、短時間の非常勤職員の受講は他の研修同様に少ない。職員の資質向上のためには、それぞれの状況に合った学び方を保障し、環境を整えていくことが今後の課題である。</p>

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>今年度は研究テーマ『園児一人一人が遊びに対して「もっとこうしてみたい」という思いを持ち、やりたいことにじっくりと取り組み、工夫をしながら遊ぶために、保育者はどのような環境構成や援助を行うべきか』の下に保育研究を行った。その中で、新教育・保育要領に示される「アクティブ・ラーニング（主体的、対話的で深い学び）」の考え方を明確にした。「何を学ぶか」という知識・技能の中身や量を重要視するのではなく、「どのように学ぶか」といった一人ひとりの学び方、「主体的、対話的で深い学び」の体験を積み重ね、生涯にわたって学ぶ力を身につけるよう援助することの大切さを理解することができた。子ども達が興味のあることに自分な</p>

	<p>りのやり方で取り組み（深く学び）遊んでいく。そこで感じる「もっとこうしてみたい」「どうやったらできるのだろう」という思いや疑問を自分で解決し、みよとするようになる体験を支えていくことが、保育教諭の重要な役割であることを捉えることができた。（重点目標Ⅰ）</p> <p>長野県の「信州やまほいく（信州型自然保育）」の認定を受けることができた。また研修会等において、自然体験が戸外活動だけでなく自然物を材料にした製作や図鑑の活用、ネイチャーゲームなど様々な活動において展開されるものであることを学んだ。これまでの園における活動をこのような視点から見直すことで、さらに豊かな体験となるのではないかと。今年度も畑でのサツマイモの栽培、プランター等での野菜の栽培を通して、植物の成長の不思議さや楽しみ、収穫や食する喜び体験した子ども達である。今後も自然体験の充実に努めていきたい。また、昨年度から参加した、こどもの森づくり推進ネットワークの「こどもの森づくり運動」において、春に発芽したどんぐりも年長の世話の下、10 cm程に成長している。年長から世話を受け継ぐ年中の子ども達も来年度の植樹を大変楽しみにし、継続的な活動として定着しつつある。（重点目標Ⅱ）</p> <p>課題となっていた職員間の情報の共有は、伝達責任やルートが明確になったことで比較的スムーズである。また、職員間の連携において、ティーム保育における共有すべき内容の吟味と理解が新たな今後の課題となった。</p> <p>保護者との連携においては、個々に降園時間やスクールバス利用など方法が違うことが日常であり、日々の担任と個々の保護者との関わり方も自ずと違う。このような一人一人の生活の違いを考慮したきめ細かな保護者との連携が課題である。（重点目標Ⅲ）</p>
--	---

6. 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

課 題	具 体 的 な 取 り 組 方 法
送迎時等の安全対策	<p>朝の自家用車通園の園児の受入れを、園門の前で道路に一時停車しての受け入れではなく、園庭内での受け入れにしたことで、園児の安全が増した。自家用車の通路（一方通行）を確保するとともに、園児が玄関へ向かう動線の安全、玄関での受け入れ職員の配置、庭の遊びの安全確保などにも今後取り組んでいきたい。</p> <p>4時降園時における安全確保は今後の課題である。園外の職員の駐車場を徐々に増やすなど園も努力しているが、スペースの確保だけでは解決しない面もある。降園時のルールの厳守について保護者の理解を求めたい。また、行事の際の駐車場の混雑を解消するために、市営駐車場の利用チケットをさらに活用したい。</p>
運動会の在り方について	<p>今年度は天候により、運動会が延期となり平日であったことから午前で終了するプログラムを編成した。このような実施をきっかけに様々なご意見を保護者アンケートの中でいただくことができた。所要時間、プログラム、競技内容等、来年度は時間をかけて検討を重ね実施したい。</p>

7、学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員からは「大きく指摘すべき事項はなく、おおむね良好な運営がされ、妥当と認められる」と評価された。また、下記について助言をいただいた。

- 園児の健康について、今年度の夏季の気温の上昇の体験を生かし、初夏からの熱中症対策を職員間で共通にしておくことが大切ではないか。熱中症の症状の理解、戸外での服装、気温上昇時は戸外活動を行わないこと、室内温度の調整、日頃からの体力作りなどについてあらかじめ検討しておくことが必要である。
- 近年、不審者・台風や地震などの災害等、園だけでは判断することのできない状況が起こっている。飯田市から発信される情報を中心に、園児の安全を第一に考え、速やかに判断し行動することが求められている。

8、財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

※4、5の評価基準

A	達成されている
B	概ね達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが感じられない